

業績ハイライト

平成27年9月中間期の決算

平成27年9月中間期(平成27年4月1日～平成27年9月30日)の決算は、貸倒引当金が前中間期の取崩しに対し当中間期は繰入となる等信用コストが増加しましたが、有価証券利息配当金の増加や経費の減少等の増益要因により、経常利益は前中間期比4億13百万円増加し47億33百万円となりました。また中間純利益は31億17百万円となり、前中間期並みの実績となりました。

預金・貸出金等の状況

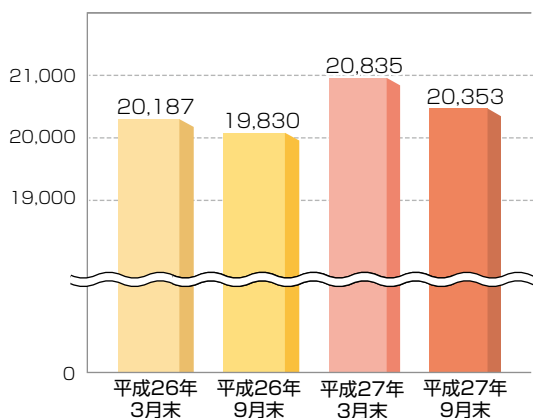
平成27年9月末の総預金残高は2兆353億円となり、前年同期比523億円増加、平成27年3月末比482億円減少しました。また、個人預かり金融資産残高は2,850億円となり、前年同期比151億円増加、平成27年3月末比32億円増加しました。

平成27年9月末の総貸出金残高は1兆3,665億円となり、前年同期比551億円増加、平成27年3月末比215億円増加しました。

(注)個人預かり金融資産残高は、投資信託、生命保険、公共債の合計であり、外貨預金は含んでおりません。

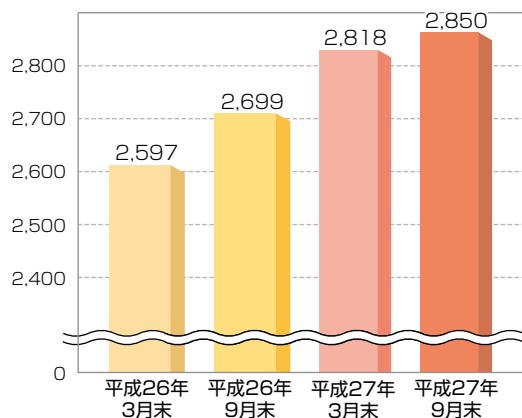
■預金残高

(単位：億円)



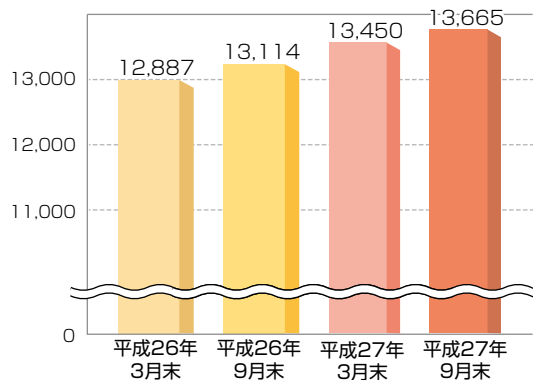
■個人預かり金融資産残高

(単位：億円)



■貸出金残高

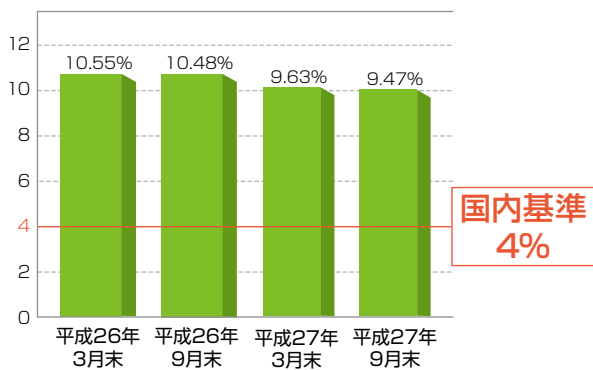
(単位：億円)



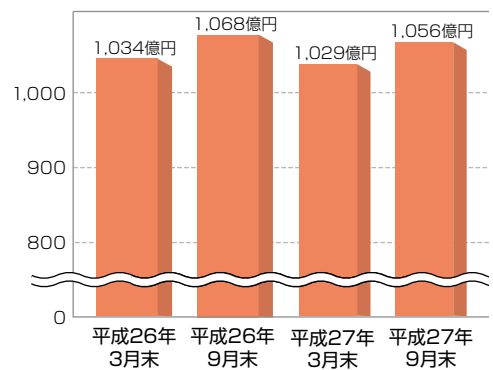
自己資本比率

- 平成27年9月末の自己資本比率(国内基準)につきましては、利益の積上げによる自己資本比率の増加要因がありましたが、他方でバーゼルⅢへの移行に伴う経過措置による減少要因もあり、加えて貸出金の増加によりリスクアセットが増加したことから、前年同期比1.01%ポイント、平成27年3月末比0.16%ポイントそれぞれ低下し、平成27年9月末では9.47%となりました。

■自己資本比率(国内基準)



■自己資本額(国内基準)



不良債権の状況

- 債権総額中に占める金融再生法開示債権(いわゆる不良債権)の比率は、平成27年3月末の2.81%が平成27年9月末には2.66%となりました。
 なお、当行は部分直接償却を行っておりませんが、部分直接償却を行った場合のこの比率をみますと、平成27年9月末で2.41%(平成27年3月末では2.54%)となっております。

■平成27年9月末の不良債権の状況

